みんなぁでつながる！ひろげる！地域のチカラ

プラットふくし

こうち

高知県社会福祉協議会広報誌

高知県社協の解体新書

contents

ボランティア・NPO情報 てをつなGO！ ―― 6
地域社会に必要な居場所づくり
シニアのちょっといい話 ―― 8
八田長寿会絵手紙教室｜一ノ宮地区老人会
プラットこうち人 田中小夏さん ―― 10
高知県社協からのお知らせ ―― 11
市町村社会福祉協議会ご紹介 ―― 12
室戸市社会福祉協議会

2024
4月号
vol.9

高知県社協の解体新書

**創刊3年目を迎える高知県社会福祉協議会の広報誌「プラットふくし」。
これまでに様々な取り組みを紹介してきましたが、
今回は、そうした取り組みを行っている・・・
だけどよく考えたら何をしているのかわかりにくい、
私たち高知県社協の取り組みをわかりやすく紹介します！**

社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会（社協）とは？

「民間の社会福祉活動を推進すること」を
目的に設置された非営利の民間組織で、
社会福祉法に規定された「公益性が高い民間非営利団体」です。
全国的には、都道府県、市区町村単位のそれぞれの段階で組織化されており、
1,893の社協があります。

県社協が目指す福祉の姿

高知県社会福祉協議会（以下県社協）では、
以下の基本理念をめざすべき福祉の姿として定めています。

誰もが安心して心豊かに暮らせる、元気で魅力ある地域
～一人ひとりの顔が見え、つながりが感じられる地域づくり～

※H19.3策定「新組織のビジョン」より

年齢や障害の有無に関わらず、
誰もが「ふだんの くらしの しあわせ」を感じ続けながら暮らしていける、
そんな地域づくりが高知県社協が理想とする福祉の姿です。

県社協の活動方針

1

地域を支える「こころ」づくり

福祉活動を進めていく基盤としての
「福祉の心」「地域を支える心」を
醸成するために、
世代を超えた福祉教育の推進などに
取り組んでいます。

2

地域を支える「ヒト」づくり

地域の福祉活動の担い手、
質の高い福祉サービスを提供する
専門職などの人材育成を
進めるための研修などに
取り組んでいます。

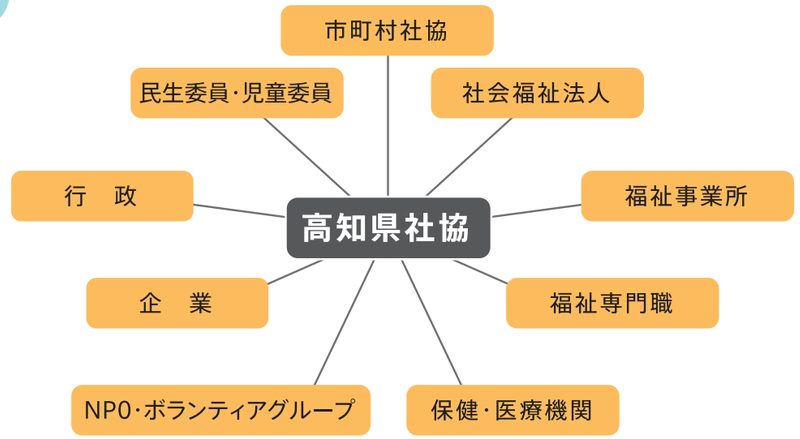
3

地域を支える「ネットワーク」づくり

地域共生社会の実現に向けて
地域住民や民生委員・児童委員、
ボランティア、NPO、社会福祉法人等との
連携・協働の強化に
取り組んでいます。

県社協の強みは多様なネットワーク

県社協は県内の様々な社会福祉関係機関とのネットワークを有しています。
よりよい福祉の地域づくりのため、このつながりを強みとして
様々な取り組みを行っています。



県社協豆知識

Q. 設立されたのはいつ？ A. 1951年

昭和26（1951）年に財団法人として設立し、翌年社会福祉法人の法人格を取得。以来、福祉ニーズや法制度等の改変に応じ組織や事業を発展させてきました。作家の宮尾登美子さんも昭和33年から数年間、在籍し、保母会の事務局で担当をされていました。

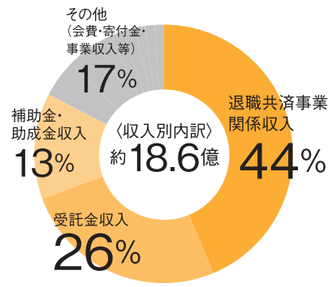
高知県社会福祉協議会
創立結成大会
（昭和26年）のようす

Q. 職員数は？ A. 123名（令和6年3月時点）

県内の福祉課題の多様化・複雑化等により事業量も増えており、この10年で約1.5倍程に増加しています。高い公益性を持つ法人の職員として、倫理観と使命感が求められています。

Q. 事業規模は？

県からの受託事業・補助事業のほか、社会福祉施設職員の退職共済事業の運営や各種貸付事業等を行っていることから、事業規模は大きくなっています。



社協のしごと

高知県社会福祉協議会では11の部署に分かれ、
それぞれが「民間の社会福祉活動の推進」を目的に様々な業務に携わっています。
ここでは高知県社会福祉協議会が担っている業務の内容について詳しく紹介します。

1 権利擁護の啓発

どこに暮らしていても権利が護られ、
自分らしい暮らしを送ることができるよう
相談窓口の運営や啓発を行っています。

主な取り組み

- ○高齢者の相談や悩みを受ける
  高齢者総合相談窓口の運営
- ○障害のある方の権利侵害、虐待等に関する
  相談を受ける**障害者権利擁護相談窓口の運営**
- ○虐待の予防や早期発見のための
  研修会や啓発活動の開催
- ○成年後見制度など権利擁護支援の仕組み
  づくりを目指して行う、**市町村への支援や**
  関係団体とのネットワークづくり

4 災害時の福祉支援体制の構築

被災地域の人々の生活を支援するために
各種研修や訓練、関係団体との
ネットワークづくりに取り組んでいます。

主な取り組み

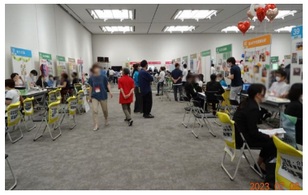
- ○災害発生時に市町村社協が設置する**災害ボランティア**
  センターの設立や運営を支援
- ○災害発生時の**人材や活動資機材、資金調達**
- ○一般避難所等での災害時要配慮者への生活支援を行う
  災害派遣福祉チーム（DWAT）の編成・派遣
- ○県外での大規模災害発生時、現地災害ボランティア
  センターへの**職員派遣やDWATの派遣調整**

5 福祉人材の確保・育成と定着支援

質の高い福祉サービスの提供や福祉活動の活性化に向け、
福祉人材の確保、育成及び定着促進のための
取り組みを行っています。

主な取り組み

- ○福祉職場の求人マッチングを行う**福祉人材センターの運営**
- ○高知県内の福祉職場が出展する**ふくし就職フェアの開催**
- ○福祉の資格取得を支援する**修学資金等の貸付事業**
- ○職務階層に応じた研修等を行う**福祉研修センターの運営**
- ○福祉機器やICT導入を促進するための**研修やふくし機器展の開催**



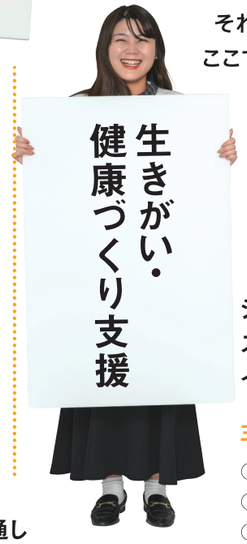
ふくし機器展

2 生活困窮者の支援

複雑な課題を抱え
生活困窮に直面する方たちの
生活再建をサポートするための
相談受付や資金の貸付けなどに
取り組んでいます。

主な取り組み

- ○法律の専門家や公共職業安定所、福祉機関と
  連携して取り組む**総合相談支援**
- ○生活リズムの立て直しや他人とのコミュニケーションの
  サポートなど、長期間働いていない方の**就労支援**
- ○債務整理や収支の見直しなどの**家計改善支援**
- ○生活困窮者を対象とした**一時的な生活費や教育費の貸付け**、
  生活の立て直しのサポートを行う**生活福祉資金の貸付け**



6 生きがい・健康づくり支援

シニアの生きがい・健康づくりに向けた
スポーツ大会やシニア大賞などの
イベント開催に取り組んでいます。

主な取り組み

- ○シニアスポーツ交流大会の開催
- ○高知の輝くシニア大賞及びシニア川柳の選定
- ○高知県オールドパワー文化展等の開催

高知県オールドパワー文化展

3 ボランティア・NPOの支援

福祉や環境、教育、まちづくりなどを通し
地域課題の解決にあたっているボランティアや
NPOの支援や育成などに取り組んでいます。

主な取り組み

- ○ボランティア・NPOへの情報提供や相談、研修、ネットワークづくり
- ○学生対象のボランティア体験キャンペーン「ナツボラ」の運営
- ○子ども食堂の設立や運営の相談支援、ボランティア研修の開催

7 就労・修学の支援

就労や修学を考える方たちの
自立を応援するための
取り組みを行っています。

主な取り組み

- ○15～49歳の利用者を対象に就労・修学支援を行う
  こうち・なんこく若者サポートステーションの運営
- ○知識やスキルを獲得できる**セミナーの開催**
- ○高卒認定試験などの**学び直し支援、**
  職場見学や体験の開催
- ○就職氷河期世代の**再スタート支援**

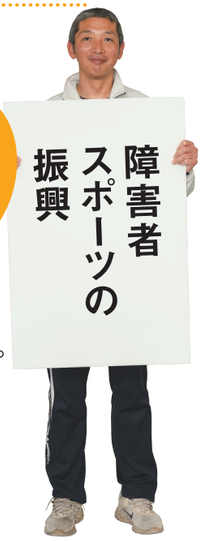
8 地域生活定着支援

高齢または障害などにより、福祉的サポートを
必要とする犯罪を犯した方達の社会復帰を
支援するための取り組みを行っています。

主な取り組み

- ○保護観察所や福祉・医療・保健機関等と連携・協働した
  地域生活定着支援センターの運営
- ○自立が困難な**被疑者・被告人等に対する支援**
- ○支援関係者を対象とした**検討会や研修会の開催**

高知県障害者スポーツ大会



9 障害者スポーツの振興

スポーツを通じ、
障害のある方々の社会参加促進を
図るための取り組みを行っています。

主な取り組み

- ○**障害者スポーツセンターの運営**
- ○ウォーキングやダンス、水泳教室など、
  スポーツが初めての方や苦手な方でも
  気軽に楽しめる**教室の開催**
- ○競技別大会や高知県障害者**スポーツ大会の開催・運営**
- ○地域や施設、学校等に出向いての**出前教室の開催**
- ○ボールやラケットなどをはじめ、ユニバーサルスポーツとして
  人気のボッチャなどの**スポーツ用具の貸出**

高知県社協のゆるキャラ図鑑

県社協のゆるキャラを一挙紹介!
表紙のみんにゃ～は裏マスコットです!

カエル
学び、気づき、描き、変わるをテーマに生息。研修情報などを発信中。

いきガイ君
貝だけに口癖は「～かい」。

ピッピちゃん
触覚（アンテナ）からボランティア活動の情報を受信・発信している。

とさぶんた
文旦と土佐犬のミックス犬。県内の認定こども園に通う3歳。

なっちゃん
新しいことに挑戦するのが好きな高校2年生。

ボラ次郎
なっちゃんの愛犬。見かけによらず活動的。

ふくことジョビー
のんびりやでおっちょこちょいなふくこさんと、しっかりもののジョビー。

地域社会に必要な居場所づくり

地域社会において、自宅などの第1の居場所に続いて、学校や職場などの第2の居場所の存在が現代では第3の居場所の存在が地域の支え合いを進めるうえで必要となってきています。今号では、そんな第3の居場所を提供している子ども食堂や地域サロン、商店街の中の地域拠点にフォーカスを当て、地域住民の声を大切にしながら、その声を活動に反映させている2つの団体を紹介します。

福祉住環境ネットワークこうち

公式ホームページ

高知市宝町30-10(088・855・4620)

誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指して、高齢者あるいは障害を持たれた方々が地域で自立できる環境整備を行う活動をしている《特定非営利活動法人福祉住環境ネットワークこうち》。中心商店街にある『タウンモビリティステーションふくねこ』を活動拠点として、車イスやベビーカーの貸し出しを行うとともに、手話カフェや童謡教室等のイベントの開催も行っています。また一角では、「高知県バリアフリー観光相談窓口」の運営も行っています。

タウンモビリティステーションふくねこが常設されるまで

タウンモビリティとは、タウン＝まち、モビリティ＝移動性であり、障害を持っても高齢になっても、誰もが出掛けたいと望む場所に出掛けられる移動の権利を保障する仕組みのことを言います。そんなタウンモビリティに《福祉住環境ネットワークこうち》が取り組み始めたのは、福岡県久留米市でのタウンモビリティの取り組みを知ったことがきっかけで、そこから高知県でも取り組もうと、ヒト・モノ・カネが0の状態からスタートしました。取り組みを始める上で高知市の協力は欠かせないということから、一緒に久留米市への視察へ行き、高知県が中央公園で開催している『ひとまちふれあいフェスタ』で車イスの貸し出しを行うなど市民を対象とした実証実験を行い、そこから得たアンケート結果などを市民の生活ニーズとして高知市に伝え、取り組みの必要性について訴えかけてきました。そんな地道な努力のおかげで、市内から県内へと徐々に取り組みが知られるようになり、2015年4月より正式に『タウンモビリティステーションふくねこ（以下、ふくねこ）』が常設されることになります。

手話カフェなど交流の場づくりも

ふくねこの活動について

『ふくねこ』では、高齢者や障害者、子育て世代など様々な理由から買い物に困難を抱えている方々に気軽に立ち寄っていただき、車イスやベビーカーなどの貸し出し、休憩スペースの提供を行い、商店街移動やお買い物のサポートを行っています。

また、バリアフリーに配慮したお店の情報提供を行ったり、タウンモビリティを進めるうえで重要な問題となっている「トイレ問題」に対応した「高知市お城下バリアフリーマップ」の作成などを行い、買い物と観光の両面で情報提供に貢献しています。この他にも、童謡教室やふくねこライブ、手話カフェなど、多種多様なイベントが開催され、施設や自宅に引きこもりがちの高齢者・障害者のための新たな居場所づくり活動も行われています。

理事長の笹岡さんは、「ふくねこが行っている活動のほとんどは、ふくねこの利用者からの声で企画・実施されているため、私たちはその声をいかに形にしていくのかを常に考え行動しています。」と語っており、この活動に対する姿勢がタウンモビリティを進める大きな鍵となっていることを実感しました。

高齢者や障がい者の快適なまち移動をサポート

地域サロン・子ども食堂「ほっと笑」

高知市高見町348(090・4500・9186)

世代交流のできる居場所づくり

子ども・子育て世代・高齢者などが世代間交流のできる居場所づくりを目指す活動を行っている《地域サロン・子ども食堂ほっと笑》。定期的な子ども食堂の開催に加え、週に3回行っている地域サロンでは、「ほっと笑」に集う人々のやりたい・学びたいことが実現できるようなイベントの開催等を行っています。

ほっと笑とは

《ほっと笑》では、毎週月曜日と月1回土曜日に子ども食堂を開催し、食事提供や食料品の配布などの食支援を行っています。また、月1回土曜日の開催の際には、「大きな家族で〇〇しよう」「大きな家族と〇〇を楽しもう」と題して、音楽演奏会やダンス、バルーンアート、ボッチャ、福祉体験などのイベントを行い、中・高・大学生が地域住民と交流を図るとともに、子どもたちの学びの充実にもつなげています。その他にも、《ほっと笑》の利用者に居心地の良さを感じてもらうために、季節に合わせた飾りつけを作るペーパークラフトや新聞パックづくり、囲碁教室、保育園との交流イベントなど、多世代に受け入れられる居場所づくりが行われています。このような活動内容からも伝わるように、《ほっと笑》とは、『ほっと』できる場所を作り、みんなの『笑』顔があふれるようにと願って名付けられています。

ほっと笑が目指していること

《ほっと笑》では、目標の一つとして、『潮江地域が安心して子育てのできるまちとして充実させていく』ということを掲げています。そのことについて、代表理事である野村さんは、「自身が生涯学習コーディネーターの資格や社会教育士の称号を持っていることを活かして、行政や地域と連携をとりながら、子どもを真ん中にした居場所をつくり、今後はこども福祉の拠点としても環境整備を行っていくことが不可欠である」と語っています。また実際に、高校生や大学生と協働して小学生を対象に世代間交流イベントを企画・運営し、キャリア教育につながるような取り組みを行うとともに、子どもたちを放課後に招き、駄菓子屋コーナーやボードゲームなどを利用した自由にほっと楽しめるような環境づくりを行っています。野村さんは、今後「高齢者と子どもによる交流の場を創出していくことで、高齢者には生きがいや意欲、刺激を与えることができ、子どもにとっては、礼儀・作法、昔ながらの知恵、いたわりなどを学ぶ機会が生まれていくのではないか」と展望を語っていました。

そして最後に、野村さんは《ほっと笑》を、集う人々のやりたい・学びたいことができる居場所、普段からのつながりの進化を続けられる場にしたい』という思いについても語られ、そこには地域に寄り添った『地域共生社会の実現』のビジョンを垣間見ることができました。

（左）高野山農園とコラボしたほっと笑ファームでの収穫
（右）子育て世代の交流

シニアのちょっといい話 vol.9

つながる、ひろがる、セカンドライフ。シニア世代の生きがい・健康づくり★

シニア世代の皆さんが生きがいのある
セカンドライフを送るための参考となるような、
県内でいきいきと地域活動をされている
皆さんをご紹介します。

八田長寿会絵手紙教室

いの町

絵手紙でつながる地域の交流

月に一度のお楽しみ

いの町にある八田コミュニティセンターを拠点に活動する「八田長寿会絵手紙教室」。月1回、第3水曜日に男女7名の会員が集まって、楽しみながら好きなように絵手紙をかいている。

会が発足したのは2018年。八田長寿会の会長である産田さんと現在先生を務める池さんが「八田でも絵手紙教室をやれたらえいね～」と話していたところ、「やりたい！しよう！」という声が現会員からあがり、まもなく発足した。

活動は現在6年目となり、敬老会での作品披露、八田郵便局での展示会、遠出をしてスケッチ会をしたりなど様々な活動をしている。また、他団体や学校などからの依頼で絵手紙教室の出前授業を行ったりもしている。

先生としても、会員としても活動する池さんは会員のみんなから非常に慕われていて、「池さんが教えてくれるき、来ゆう」という声もあがるほど。池さん曰く、「一番の先生は、果物や花など題材とする自然なんです」だとか。

楽しみながら、和気あいあいと

絵手紙をかく手順は、墨を摺ったり絵の具を準備したりするところからはじまる。各々がかきたい題材を決めると、その特徴を捉えながらハガキや手紙などにのびのびとかいてゆく。絵手紙は手紙であるため、短いことばや詩などのメッセージを入れれば完成だ。

みんながかき終わると、絵の題材を選んだ理由や詩の意味などを発表するお披露目会がはじまり、その流れで「この絵は色づかいが良くてしまっちゅう」「字のにじみ方がえいね～」と、皆がそれぞれに想うことを和気あいあいと伝え合う講評会へ。

「絵手紙はヘタでいい、ヘタがいいと教わります。心を込めてかいたものは拙く見えてもいいのです」と素敵な笑顔で語るのは池さん。この月に一度の絵手紙教室の時間は、みんなが好きに自由にかける息抜きの時間なのだ。

例年恒例となっている年賀状展は、2024年も2月1日から末まで開催した。会員それぞれが思い思いに描いた年賀状が八田郵便局に展示されており、地域住民に見てもらう機会にもなっている。今後も展示会など様々な活動を通して地域住民により知ってもらい、会員を増やしていきながらより活動を発展させていきたいということだ。

一ノ宮地区老人会

安芸市

月に一度のバザーでつながる

地域のために、できることを

活動のコンセプトは「地域のために自分のできることをしていこう」。60歳を超えると入会することになっているという安芸市一ノ宮地区老人会は、180人ものメンバーがバザーや百歳体操、資源ごみ回収などの活動を集会所を拠点に行っている元気な団体だ。

バザーは月に1回程度開催。住民から不要になった衣服などを提供してもらい販売したり、同じく住民から提供してもらった食材などでつくった五目寿司や炊き込みごはんを販売したりしている。

地域の人々の優しさを感じられるのがバザーの良さだが、良いことばかりではなく大変さもある。五目寿司を調理するにあたり、作業部のメンバーは米を1斗4升…つまり140合（！）もの量を炊かなければいけない。むろんこれは途轍もない大仕事で、バザーの日が近づいてくると「早めぐってきた！」「またせないかん」というしんどさが正直なところあるという。それでも五目寿司づくりを10年以上も続けてこられたのは、皆からの「ありがとう」や「おいしかった」という言葉があったからだ。

日々のつながりが未来へつながる

バザーは地区住民の顔を合わせる大切な機会にもなっている。老人会の中心も担う地区長の川上さんは、「顔もよう知らんのに地震や火事、水害などの災害のときだけ急に助け合う、ということは難しいろう。顔見知りになることで日常生活の安心感や、災害が起きた際の共助にもつながる。日頃からみんなで顔を合わせてつながりをつくっちょかんと、助け合うことはできんきね。」という。

その他、老人会では地区住民がバッグや野菜、手づくりお菓子、いももちなどを自由に販売できる良心市を運営しているほか、地区でその月にあった出来事を川上さんが綴った『一ノ宮の皆さんへ』というニュースも毎月月末に発行している。

「この手紙を通して、住民のみんなが地域への共通の理解を持って、気持ちよく、楽しく、お互いのために元気に過ごしていく環境ができればと思いゆう」
川上さんの言葉だ。

左／バザーで人気の五目寿司
右／衣服から日用品、食品までいろいろ揃う

プラット・こうちくん VOL.9

田中小夏さん（21）

高知県立大学社会福祉学部4回生

高知県立大学の「立志社中」は、「地域に学び、地域で育つ」をスローガンに、地域活動に主体的に取組む学生たちを大学が支援する教育プログラムだ。地域の活気を取り戻すことをめざし、さまざまな学部から構成された20人のメンバーが佐川町尾川地区を拠点に活動する「活輝創生実行委員会」もそのひとつで、昨秋まで代表を務めていたのが同大学の社会福祉学部に在学する田中小夏さん。

「スマホ教室」が地域住民と学生の交流の場へ

福祉に興味を持つようになったのは、高校生の頃に友人から壮絶な家庭環境であることを相談されたことだという。明るい家庭で朗らかに育った田中さんにとって家庭環境のギャップはとても衝撃的で、このとき後輩の話をただ聞くことしかできなかった自分に歯がゆさを感じたという。

このことをきっかけに、児童福祉の資格取得を志すようになり、高知県立大学社会福祉学部へ入学。入学後は地域活動に参加することで福祉専門職としてコミュニケーションスキルを磨くことができると考え、学生が主体的に地域住民と活動ができる「活輝」に入会。地域住民で構成する「尾川地区活性化協議会」や「あったかふれあいセンターひまわり」などと共同でお祭りなどのイベント企画や運営に取り組むようになった。

地域の高齢者を対象としたスマホ教室では、LINEの利用方法を中心に、新型コロナワクチンの接種予約や迷惑メールの設定方法等の「スマホに関してなんだかよく分からないこと」を何でも相談してもらった。コロナ禍で希薄になっていた学生と地域住民との関係性を深めることにもつながり、学生からも「やって良かった！」という声が聞こえてきて、素直に喜びと今後のやりがいにもつながった。

若い世代参画を促すために

現在、地区のコミュニティを支える「尾川地区活性化協議会」のメンバーのほとんどが70代から80代と高齢化が進んでおり、次世代を担う若い世代の参画をどう促していくかが課題になっている。

「コロナ禍を経てイベントも復活したけれど、本当に地区が活性化をしていくためには若い世代に役割を担ってもらうことが大事。子供たちを含む幅広い世代にもっと尾川の魅力を知ってもらい、愛着をもってもらうことが必要なんです」

そう語る田中さんが地域の方の発案で新たなイベントとして関わったのが、地区の小中学生を対象としたミニSL乗車会だった。当日は保護者も参加してくれたことで、地区にこんなに若い世代がいるのかと新たな発見があった。同時に若い世代とのつながりも生まれ、これからも「若い世代が参加してくれるイベントに力を入れていきたい！」と意気込んでいる。

精力的な地域活動への取り組み以外にも、田中さんは活躍の場を広げている。『高知家地域共生社会フォーラム』ではパネリストとして登壇し、尾川地区での活動経験をもとに学生目線でできる地域共生社会について発信した。高知県が実施する『ヤングケアラー普及啓発事業の企画検討会』でも他の学生と一緒に学生目線で認知度向上のための効果的な広報のアイデアを出したり、フォーラムの司会などを行った。

様々な場面で積極的に取り組む姿勢の田中さんに活動の原動力は何かと問うと、

「自分に与えられた学びのチャンスを逃すのが怖い。失敗することもあるけど、得るものは絶対あると思う。意識的に自分を変えているんです。」

と力強い言葉。そして、

「学生ならではのフットワークの軽さを活かしながら、学びのチャンスを逃さず見識を広げていくということは、ソーシャルワークの視点では必要なことだと思うんです」

とほほえみながら語る。

今後は、尾川地区活性化協議会の30周年のあゆみをまとめる活動や、小学生の時から続けている卓球を活かして子供から高齢者、障害者もみんなで楽しめるサロン活動をやりたいと考えているそうだ。最近は購入した二眼レフのカメラで、自然豊かな県内の魅力を写真に収めることが趣味になっているそう。フィルター越しに見た風景は地域の新たな魅力や資源を発見できるかもしれない。

高齢者を対象に行ったスマホ教室が好評

高知県社協からのお知らせ

夏の「ふくし就職フェア」を今年も開催!!

県内の福祉施設・事業所の採用担当者と就職を希望する方との就職相談会を対面及びWEB方式で実施します。

［日　時］対面：令和6年8月24日（土）
WEB：令和6年8月29日（木）～31日（土）※予定

［場　所］高知市文化プラザかるぽーと
高知市九反田2-1
［問い合わせ先］高知県福祉人材センター
TEL:088-844-3511
E-mail:jinzai@pippikochi.or.jp
https://www.fukushi-jinzai.com/

キッズ☆バリアフリーフェスティバル2024開催!

社会福祉法人高知県社会福祉協議会では、2011年から毎年、医療・福祉、教育関係者等の協力のもと、障がい児やその家族を対象に、相談や福祉用具展示など、今後の可能性を伸ばすための支援を行うとともに、豊かな成長のための学びや交流の場を設けることを目的に『キッズ☆バリアフリーフェスティバル』を開催しています。

［日　時］令和6年6月29日（土）13：00～17：00
令和6年6月30日（日）9：30～15：30
［場　所］高知県立ふくし交流プラザ全館（高知市朝倉戊375-1）
［問い合わせ先］高知県社会福祉協議会いきいきライフ推進課
TEL：088-844-9054
E-mail：kaigohukyu@pippikochi.or.jp

ナツボラ（夏のボランティア体験キャンペーン）2024 受入登録団体募集!

若者のボランティア活動の裾野を広げ、多様なボランティア活動を地域に充実させていくことを目的とした「ナツボラ」を今年も開催します!

ナツボラ実施にあたり、県内各高等学校、大学等に配布する「ナツボラガイド」に掲載する団体とボランティアプログラムを募集します。

※事前登録が必要です。

あなたの施設、団体、地域が若者の力で溢れる夏にするため、一緒に「ナツボラ」に取り組みませんか?たくさんのプログラム登録をお待ちしております!!

詳しくは、下記までお問い合わせください。

［受入登録期間］令和6年4月1日（月）～5月17日（金）
※必着
［問い合わせ先］
高知県社会福祉協議会 ボランティア・NPOセンター
TEL:088-850-9100
E-mail:kvnc@pippikochi.or.jp

令和6年度 社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます　ふくしの保険　検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で充実補償をご提供します！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償（賠償責任保険、動産総合保険等）

❶ 基本補償（賠償・見舞）

▶保険金額

		基本補償（A型）	見舞費用付補償（B型）
賠償事故	身体賠償（1名・1事故）	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償（1事故）	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中）	200万円	200万円
	うち現金支払限度額（期間中）	20万円	20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中）	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償（期間中）	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円
	被害者対応費用（1名につき）	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1,5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶年額保険料（掛金）　保険期間1年

	定　員	基本補償（A型）
基本補償（A型）	1～50名	35,000～61,460円
	51～100名	68,270～97,000円
	100名以降1名～10名増ごと	1,500円
見舞費用付補償（B型）	基本補償（A型）保険料 ＋ 【見舞費用加算】定員1名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円	

プラン2 施設利用者の補償
プラン3 職員等の補償
プラン4 法人役員等の補償

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

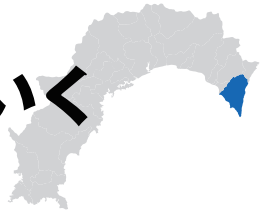
団体契約者　社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

（SJ23-11446 より抜粋）

高知県内の市町村
社会福祉協議会ご紹介ー❽

互いに考え、協議する場を続けていく



室戸市社会福祉協議会

高知県内でもっとも東にある人口約11,600人の市、室戸市。
多機関連携の要である『室戸市ネットワーク会議』などの
室戸市社会福祉協議会の取り組みをご紹介します。

多職種間で情報を共有し、交換することで地域生活を支えていく

室戸市社会福祉協議会では、医療・介護・福祉ネットワークづくり事業の基盤づくりとして平成25年に『室戸市ネットワーク会議』を発足させました。発足に至るまでには、先にネットワーク会議が発足していた宿毛市へ担当者が見学訪問し、それをもとに室戸市に合う会議について検討を重ねました。

ネットワーク会議は、室戸市内の高齢者・障害者等が住み慣れた地域で安全・安心に暮らしていくために、医療・介護・福祉等に関わる多職種がそれぞれの情報を共有し合うことで地域生活における問題を解決していくことを目的としています。そのため、高齢・障害分野の事業所、市役所の高齢者・障害・保健衛生担当、消費生活センター、福祉保健所、市内医療機関の医師や看護師、調剤薬局の薬剤師、民生委員、消防署、警察署、司法書士など多種多様な人材がネットワーク会議に集まっています。

ネットワーク会議では、参加する全事業所に共通する内容をテーマに、利用者や地域住民へどのようにつなぎ活かせるかを互いに考え、意見を出し合っています。直近では『更生保護制度』や『精神障害者の地域移行支援』など、地域の実状やテーマにおいてそれぞれの専門分野でできることは何かを話し合いました。

互いに顔を見ながら話し合うことで関係が深まり、ネットワーク強化にも繋がっています。また、こういった多職種の間で協議する場を続けることが地域住民への還元につながるとも考えています。

参加者が抱える悩みを専門職に気軽に聞ける雰囲気であることも室戸市ネットワーク会議の特徴です。たとえば、会議のなかで民生委員さんからあがった「自分の地区の住民さんで接し方が分からず、地域でどのように受け止めて行ったらいいか?」との質問に対して、専門職や専門機関から工夫や助言をもらうことがありました。職種によって生じる専門的な悩みや問題について、抱え込まずに『困ったこと』を発信し、より専門的なアドバイスがもらえるというのは参加者にとっても心強いことだと思います。そして、その問題解決がよりよい地域生活へと還元されていきます。

「発展」よりも「継続」を

通常はこういった取り組みについて『いかに取り組みを発展させていくか』に注視しがちですが、室戸市社会福祉協議会では『世代交代をしても取り組みを続けていくこと、途絶えさせないこと』に重きを置いています。

その背景には、ヘルパーの人材不足により地域住民への福祉サービスを充実させていくことに難しさが見えてきているという、室戸市特有の課題があります。

ネットワーク会議では、支援者が分野を超えた共通の課題意識を持ち、市民や利用者への支援を充実させていくことで、誰もが暮らしやすい室戸市をつくっていくことを目指しています。

発足時より携わる室戸市生活相談支援センター安岡孝章所長は「長く継続し顔が見える関係がつながり続けることが重要。今後も室戸市社会福祉協議会らしく続けていきたい」と語っています。

社会福祉法人
高知県社会福祉協議会
高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 ／ FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp
https://www.kochiken-shakyo.or.jp/

ふくし交流プラザへの交通のご案内
［お車でお越しの方］高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
［公共交通機関でお越しの方］最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

QUOカードがあたる！読者アンケートにご協力ください！

「プラットふくし」をより良い紙面としていくために、みなさまからのご意見をお待ちしております。ご回答いただいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきますので、右記QRコードより2024年6月30日までにご回答ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方にクオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

アンケートは
こちらから!

プラットふくし ぷらっち
vol.9
2024年4月号　2024年3月31日発行
企画・編集・発行／社会福祉法人高知県社会福祉協議会
制作／ Takemura Design & Planning　イラスト／イワサトミキ　印刷／株式会社リーブル